

令和7年3月31日

筑紫野市議会
議長 赤司泰一様

会派 市民会議
報告者 上村和男

令和6年度 会派市民会議 研修報告書

会派市民会議が参加した研修について、下記のとおり報告します。

記

1. 日 時

令和6年7月8日（月）から 7月9日（火） 1泊2日

2. 研修先及び研修項目

2. 研修先及び研修項目

研 修 先 全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎2-13-1

研修項目 令和6年度世界情勢からわが町の未来をつくる

～トップマネージャーの方のために～

3. 研修者

吉村陽一 春口茜

【外国人受け入れと多文化共生社会の実現】

外国人を包摂した日本社会の在り方を考える 受講報告

日時：2023年7月8日

場所：滋賀県大津市全国市町村国際文化研修所

講師：佐々木 聖子さん 初代出入国在留管理庁長官

【目的】 外国人労働者などの受け入れと市民相互の多文化共生を学ぶ。

【内容】

◇日本に在留している外国人のプロフィール（R5年末）

《在留外国人数 341万992人》

在留資格別 在留外国人の構成比

- ・永住者26.1% ・技能実習11.9% ・技術、人文知識、国際業務10.6%
- ・留学10.0% ・家族滞在7.8% ・定住者6.4% ・特定技能6.1%
- ・日本人の配偶者等4.4% ・特定活動2.2% ・特別永住者8.2% ・その他6.4%

国籍・地域別・在留外国人の構成比

- ・中国24.1% ・ベトナム16.6% ・韓国12.0% ・フィリピン9.4%
- ・ブラジル6.2% ・ネパール5.2% ・インドネシア4.4% ・ミャンマー2.5%
- ・台湾1.9% ・米国1.9% ・その他15.8%

◇これまでの日本の受け入れ政策・多文化共生施策の移り変わり

- ・受身的受け入れ（戦後～20世紀ごろ？）

↓

- ・積極的受け入れの兆し（2000年ごろ～）☆外国人受け入れのパラダイムシフト

↓

- ・部分的能動的受け入れ（2015年ごろ）☆受け入れを共生が合体

◇近年の外国人受け入れ政策・共生施策の特徴

①受け入れ政策と共生施策の連動・連携

- 「外国人人材の受け入れ・共生に関する関係閣僚会議」 2018年
- 「外国人人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」 2018年＝毎年改訂

②共生社会実現のための展望の検討

- 「共生社会の在り方及び中長期的な課題について」 2021年
- 「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」 2022年

③国と地方公共団体の連携

- 一元的総合窓口設置、外国人受け入れ環境整備交付金
- 地方出入国在留管理局に受入環境調整担当官配置

④在留支援体制の構築

○出入国在留管理庁在留管理支援部在留支援課創設 2019年

○外国人在留管理センター（FRESC/フレスク）開設 2020年

⑤外国人総合支援コーディネーター 2024年度～ ☆「制度」へのビルトイン

⑥外国人受け入れ制度上の「寄り添い機能」の構築

○技能実習制度管理団体、日系4世サポーター、特定技能制度支援者・登録支援機関
退去強制手続き上の監理措置

◇外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ

①目指すべき外国人との共生社会のビジョン ☆「ロード」の目指すのも（精神版）

「安全・安心な社会」

これからの日本社会を共につくる一員として外国人が包摂され、全ての人が安全に安心して暮らすことが出来る社会

「多様性に富んだ活力ある社会」

様々な背景を持つ外国人を含む全ての人が社会に参加し、能力を最大限に発揮できる、多様性富んだ活力ある社会

「個人の尊厳と人権を尊重した社会」

外国人を含め、全ての人がお互いに個人の尊厳を人権を尊重し、差別や偏見なく暮らすことが出来る社会

②取り組むべき中長期的な課題（4つの重点事項）

1. 円滑なコミュニケーションと社会参加のための日本語教育等の取り組み
2. 外国人に対する情報発信・外国人向けの相談体制等の強化
3. ライフステージ・ライフサイクルに応じた支援
4. 共生社会の基盤整備に向けた取り組み

◇選ばれる共生社会のモデル案

1. 来日前からの情報共有

双方が「こんなはずじゃなかった」とならないために

地域の魅力を存分に発信しましょう。

でも、外国人が戸惑うかもしれないことも、正確に伝えましょう。

2. 来日直後のサポート

特に、言葉の壁や日本・地域特有のルールに留意

思いっきり手取り足取りすることが必要です。

でも、社会のルールなども、正確にしっかり伝えましょう。

3. 活動（就労や勉強）開始後の接し方

ハンディーはサポートしつつ、日本人と同等の処遇や接し方が必要

「日本人との同等報酬の義務付け」等は、日本のひとつの魅力（当然すべきことですが）です。

外国人に声をかけ、地域のいろいろな場で活躍してもらいましょう。

4. 生活者としての外国人との共生

同じ情報の共有（言語や分かりやすさに留意）と、困ったときに頼りになる何か（市役所窓口や「寄り添い係」的な人）の確保

外国人が地域社会に生活していることが「あたりまえ」になっていけば、もう大丈夫。

でも、いざという時のセーフティーネットは絶対に必要です。それがあることがきちんと外国人に知られていることが大前提です。

1. 自立した社会の一員としての尊敬

多文化共生推進プラン（2006）の理念

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

（外国人への支援は必要だが、支援の客体にとどまらない）

◇外国人の受け入れの戦略的展望

↓①これまでは、国内的視点が基本（来日者∞の前提）

↓②国際的な人材獲得競争の激化で来日者∞は夢？

↓③どの国が日本をどう見ているか（どこから日本に来てくれるのか）を知る必要性大

↓④どの国をどう惹きつけるかの戦略が必要

↓⑤効果的なのは、今いる人を惹きつけること

↓⑥多文化共生社会づくりの努力に、国籍・文化別きめ細かさが期待される

↓⑦各国における働きかけも必要

↓⑧国際人流の鳥瞰とそれを念頭においた戦略づくりと実践

☆外国人は、日本の玄関に突然現れるわけではない

◇外国人問題を考えてみませんか？

（1）現行制度・実態の理解の共有

- ・数種類の在留資格以外は、定期的チェックを重ねて、定住・永住が可能
- ・在留外国人の半数以上は、定住者・永住者
- ・どういう外国人を受け入れ、共生していくかの政策は、原則、法律の形で実現（在留資格、退去強制自由等）
- ・議論を重ねていくうえで、言葉の定義の共有が必要（移民・難民等）

（2）視点

- ・中長期的ビジョンからの帰結

「どのような日本社会でありたいのか」の視点から、一要素をしての外国人問題の在り方を考える

- ・実態把握とその分析からの展望

現状の正確な把握と緻密な分析から、「これでよいのか」との問いを発し続け、将来を展望する

(3) 議論のポイント

- ・適切な「発問」を冷静な議論
- ・関心分野の相互乗り入れ（外国人は、一人の「人」なので）
- ・外国の制度などを参考にしつつも、日本独自のものを作るべき（日本社会への包摂）

☆「ロード」の目指すもの（実態版）・・・をどうするか

以上

吉村 陽一

世界情勢からわがまちの未来をつくる～トップマネージャーの方のために～

日時：2024年7月9日10：45～12：15

場所：全国市町村国際文化研究所

講師：柴山 哲治 さん 株式会社AGホールディングズ 代表取締役
有限会社膳所焼窯元陽炎園 代表取締役
一般社団法人芸術支援・地方創造機構 代表理事

【研修目的】筑紫野市の地域活性化

2日目【アートや文化で地域を豊かにする戦略と実践】

企業の納税制度の活用と研究開発の重要性

- 企業のふるさと納税制度を活用して、研究開発を促進することが重要である。
- 研究開発によって、新しい技術や製品を生み出すことができ、経済成長に貢献することができる。
- また、研究開発によって、雇用を創出することもできる。

芸術と科学の融合による地域活性化

- 芸術と科学の融合による地域活性化の取り組みを紹介。
(香川県のベネッセアートサイト直島)
- 芸術人材が地域に貢献できる様々な事例を紹介。
- 芸術と科学の融合による地域活性化の重要性を強調。

芸術文化の振興と人材育成

- 芸術文化の振興と人材育成について議論。
- 京都は芸術文化の振興に力を入れており、全国から芸術人材芸術家の求めた人材を育てている。
- 芸術文化の振興は、地域を豊かにするためにも重要。

多様な創造性を学ぶ

- 映画館に行き、多様性を学ぶ。
- 食堂で創作活動をする。
- オークションに参加し、リサイクルマークのついた商品を購入する。

アーティストイベントで町が活性化

- アーティストイベントで町が活性化することを期待。
- アーティストが求めるギャラリーやアトリエなどの環境整備が必要。
- 東京は物価が高いため、地方に移住するアーティストもいる。

京都市芸術大学の芸術学部について

- 芸術学部では、絵画、彫刻、工芸、デザイン、音楽、演劇、舞踊など、幅広い分野の芸術を学ぶことができる。
- 芸術学部には、国内外の著名な芸術家が教員として在籍しており、学生は一流の芸術家から直接指導を受けることができる。

アトリエの強化とコラボレーション

アトリエの強化とコラボレーションの重要性について

- 様々な分野の専門家と協力して、より良い作品を生み出すことができる。
- コラボレーションによって、新しいアイデアや視点を得ることができる。

歴史の解説

- 佐渡は歴史を解説するのに適した場所である。
- 歴史を解説することで、観光客を呼び込むことができる。
- 歴史を解説する際には、その土地の歴史や文化を理解することが重要である。

音楽の価値

- 音楽の価値は、アーティストの知名度や人気によって決まる。

以上

報告者：春口あかね